

平成 19 年度第 7 回(通算第 40 回)「市民の皆さんとランチで対話」概要

団 体 名	のしろ檜山周辺歴史ガイドの会
開 催 日 時	平成 19 年 10 月 19 日 (金) 正午 ~ 午後 1 時 10 分
開 催 場 所	市長応接室
出 席 者	のしろ檜山周辺歴史ガイドの会 6 人 (能代市：市長、生涯学習課長、文化係長、観光振興課長、地域情報課長)
案 件	ガイド領域のトイレの増設について 他
会議の概要 (主な発言)	<p>(...歴史ガイドの会の皆さん ...市長)</p> <p>1 多人数の団体の訪問が多い。ガイド領域のトイレを増やしてほしい。 2 ガイドの案内所(兼控所)を設置してほしい。</p> <p>年間 1,000 人超をガイドするが、エリア内には簡易トイレが 2 カ所しかなく、待ち時間で相当時間がかかる。増設願いたい。 集合場所(旧崇徳小跡地駐車場)も相手には解りづらく、雨天時等一時避難する場所もない。プレハブでも、看板を掲げた施設がほしい。 これは 10 年来の懸念事項。合併前の「総合計画」では古民家を再利用し「地域センター」を前倒しての改築との話もあったが、実現されなかった。 要望は承知。まずは拠点施設の問題解消が不可欠と考える。 トイレも、簡易ではなく街並み景観にあったものが必要。 檜山は歴史・観光ともに重要な地。最低限の施設整備は必要だが、財政が厳しく検討が必要。当面は、簡易トイレの種類や箇所数増を検討したい。拠点施設整備は早急に考えたい。</p> <p>檜山地域は、歴史の里として重要な地域。拠点整備は「生活」「観光」「文化」を凝縮した形で行うべき。そのシンボルが「古民家」。また、旧崇徳小などにあった古民具を見て学べる「歴史資料室」も必要。 総合的施設が望ましいが、「古民家」再利用には、移築費・経年経過の保守費用など経費増も見込まれ、効率的な形態の考慮が必要。</p> <p>全国には整備された「山城」史跡が多い。檜山は昭和 55 年に国の指定史跡の指定を受け、市でも「史跡整備計画策定準備委員会」などを設置し、検討してきたが、未だ「準備」のまま。早期に「公園化」を。 今年 8/11 付「聖教新聞」に国交省の「史跡活かしまちづくり」との記事が載った。この制度を研究してみても？ 「史跡」より「公園」に観点を置く制度のよう。記事では「方針を固めた」旨の表現で、その後の経過を研究・検討し、国交省と相談したい。 教育委員会で檜山城趾に設置した「案内表示板」は重宝している。環境整備も会員で自主的に行っており、互いに協力し合いたい。</p>

行政で全ての「案内板」の発注・設置は困難。今後は「協働」して、材料を市が提供し、皆様が手書きすれば立派な看板で、愛着も湧く。草刈りも同様。

本会も発足して10年。生涯学習課で再度講座を設けて、新人養成にも着手を。市長の「協働」という言葉、共感するし、檜山の歴史のまちづくりの発展に貢献したい。